

『 B型肝炎について 』

～～B型肝炎は治っても、ウイルスは肝臓に潜んでいる～～

まず一句 『(D)DNA (N)中に潜むぞ (A)安心するな』



劇症肝炎(重症肝炎)や慢性肝炎急性増悪をきたす事はもちろん

▼ここから注目▼

血液中のB型肝炎ウイルスが消えたと思ってもウイルスの元は細胞核内に残っている！！cccDNA という完全2本鎖のDNAの形で人間の肝細胞核内のDNAにはまり込みびくともしない。

■知っているとちょっとカッコイイ知識

■cccDNA : covalently closed circular DNA (共有結合性閉環状DNA)の略

現在のB型肝炎の治療としては核酸アナログ製剤が使用されています

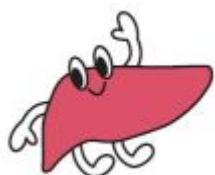
《日本ではゼフィックス・ヘプセラ・バラクルード》

上記の薬はB型肝炎の治療には効果的ですが、核内のcccDNAには効きません。

従って投与によりウイルスが減って肝炎が治まってもcccDNAはそのままなので、投与を止めるとまたウイルスが増えてきて肝炎が悪化していくのです。

治癒後のように血液からウイルスが完全に消失しても核内cccDNAが潜んでいる

身体が元気なときは自分の免疫が勝っており何も起こりませんし通常は一生影響を与える事は無いのですが、特殊な状況下、例えば免疫抑制剤や強い抗癌剤を使用したり、移植後など免疫力が落ちると再びウイルスが活性化して肝炎を起こし、重症化し死亡するケースが多く注意が必要です。現在診断法や治療法が進歩し工夫されつつある段階です。これからの課題と言うところです。



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

B型肝炎ウイルスのDNAは細胞核内に潜んでいる。

既往歴の有る人、キャリアの人に対しては注意深く経過観察していく事が重要。免疫抑制剤、抗癌剤など強い薬を使用する場合はB型肝炎の既往を確認しウイルスの再活性化に注意する必要があります。

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)